総合職試験　文学

問三　次の文章はテリー・イーグルトンの『文学という出来事』(大橋洋一訳)の一節である。フィクションとノンフィクションの違いについて、「文体」と「実用目的」という言葉を用いながら、ここに書かれている内容を簡潔にまとめた上で、具体的な例に言及しながらそれについてのあなたの考えを 600～800 字で記しなさい。解答用の原稿用紙を使用すること。

人びとは、ある作品を、たとえそれが道徳的に薄っぺらくても虚構であり言語的に創意工夫に富んでいれば文学と呼ぶかもしれないし、あるいは、それがノンフィクションでも、意味のある道徳的洞察をもたらし、「美しく」書かれているから文学と呼ぶかもしれないし、またノンフィクションで道徳的にみて取るに足らなくても実に見事に書かれ、おまけに直接的な実用目的にまったく奉仕していないがゆえに文学と呼ぶかもしれない。実用的なものだが言語的に豊潤なテクスト(たとえば悪霊を退散させる儀礼の際に朗誦される呪文)を文学とみなす者もいれば、悪霊退散の朗誦が実用目的であるという事実のほうが重要で、その修辞上の魅力は二の次であるとみなす者もいるだろう。